

楓葉



【2017年8月 同窓会誌】



独立行政法人 国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校同窓会
発行責任者 佐竹 一枝

＝2017年6月3日 同窓会規約改定＝

本会の会員は独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校卒業生をもって組織する(第4条)とあります。そこで、同窓会費を入会金と永久会費に分けていましたが、永久会費とすることに規約改定しました。

◎改訂条約◎

第16条 会員は本会の維持資金として永久会費10,000円を本会会費として納めなければならない。会費徴収は卒業前に学校での一括徴収とする。特別会員からは徴収しない。但し、活動に支障をきたす場合、会長は役員会の議を経て寄付金を受けることができる。



会長挨拶

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
発行責任者 佐竹 一枝

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より、同窓会活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月卒業生70名が仲間入りし、同窓会員2137名となりました。卒業生が社会に出て数ヶ月経ちます。既に数えきれない困難に立ち向かい、悩み、自分の足で乗り越えていることと思います。本会は、同窓の絆を深めるべく、楓葉祭や植樹式などの学校行事へ参加し、折に触れ卒業後の進路や看護師としての新生活についてなどを語り合い、在学中より交流を深めるために活動しております。新会員の皆さま、少し先に同じ道を歩んできた同窓の私たちが、すぐ近くで両手を広げて待っていますので頼ってきてください。

私たちは、同じ学び舎で3年間の学生生活を送り、看護師という資格を有し、それぞれの道に進みました。同窓生は、ライフスタイルやスキルに合わせ、病院以外にも多岐にわたり、訪問看護ステーションや介護施設、厚生労働省が打ち立てた地域包括ケアなど、第一線で活躍されています。今年度は、病院以外の職場を選ばれた4名の方々に寄稿をお願いしました。近況報告のお手紙や就業中の写真を寄稿に沿って送って頂きました。快く寄稿をお受け頂きましたことに感謝申し上げます。

6月3日（土）、出席者21名と委任状提出で、幹事会が無事開催されました。会誌発行にあたりましては、有志の方々に袋詰め作業のご協力を頂き無事発送できていますが、同窓会名簿に住所不明の方々が多数おられます。どうぞ新しい情報を幹事や同級生を通じてお寄せくださいますようお願い致します。

本会が更に発展しますよう、今後とも学校のご支援と皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い致します。また、母校の発展に寄与できるように役員一同力を合わせて頑張る所存です。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



ご挨拶



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
学校長 平原 史樹

同窓の皆さまこんにちは。日々ご活躍されている同窓の皆様にはこころよりお喜びを申し上げます。さて皆様の母校である本校では本年も先般の入学式で熱意に満ちた、元気あふれる77名の第55回生を迎えることができ、また学校はあらたな年輪を重ねることになりました。

国立病院機構病院附属看護学校は年々きびしい環境に置かれつつあります。昨年度いっばいで災害医療センター附属昭和の森看護学校は東京医療保健大学立川看護学部に移管となりました。一方では高崎総合医療センター附属高崎看護学校が本年4月に新装校舎の落成とともに大型校へと転じたとのニュースもありました。国立病院機構病院の看護師養成プログラムは今までもまたこれからも本邦における医療機関の重要な役割を果たしていく責務を負っていることには変わりませんが、それをどのように社会に伝え、知ってもらうかは重要なことに思います。幸い本校には本年度も機構本部、また神奈川県からも運営支援をいただいております。少数精鋭の教員のもと、育成課程を全うしたいと思います。

幅広い人間性を涵養し、高度な医学知識、看護理論、看護技術に加えて国際性を持ち合わせた真の医療プロフェッションを育てる場として本校はきわめて重大な使命を担っており、その教育、研修には皆様方同窓の方々の大いなるご支援またご指導をいただくことになるものと考えております。学校では日々、教員、スタッフが一丸となってより良い看護教育の実践を推進しております。皆様方におかれましても、ぜひ同窓のお立場として、お互い力を合わせ、連携する中でご自身、またお仲間たちとなお一層のご支援をいただき、また皆様のご発展、ご活躍をされますことをお祈り申し上げます。

看護学校現況について



独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター附属横浜看護学校
副学校長 萩原 一美

同窓会の皆様には、日頃より看護学校の運営につきまして、あたたかいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

昨年度の同窓会総会後の看護学校の近況について、ご報告致します。

10月には恒例の楓葉祭が行われ、あいにくの雨模様でしたが、学生達のご家族や地域の皆様のたくさんの方にお越し頂きました。また、同窓会役員の皆様にもご多忙の中お越し頂き、ありがとうございました。

2月の国家試験には、70名が受験しましたが、残念ながら本年度は4名が不合格となってしまいました。次年度は必ず合格できるよう学校としても引き続き支援してまいります。

3月には、第52回の卒業式が挙行され、70名が巣立っていきました。

4月に入り、第55回の入学式が挙行され、77名の新入生を迎え入れ、在籍者数247名でスタートしました。

学校の喫緊の課題は、入学生の確保です。入学試験制度は、推薦（指定校・公募制）入学試験・社会人入学試験と一般入学試験を行っています。推薦の公募制・社会人入学者は、学校が選べる応募状況にありますが、一般入学試験は、選べるだけの応募者の確保が難しい状況です。神奈川県内には、看護系大学・看護学部が12校、短期大学3校、専門学校26校で1学年定員3055名と、看護師養成にあっては養成する側の激戦区です。旧国立の看護学校の教育の質は、他に誇れる内容と自負しておりますので、50年以上の伝統ある横浜看護学校を次世代へ引き継いでいく方策を、同窓会の皆様のお知恵を拝借しながら考えていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

全国で活躍する同窓生



19回生 蓮田 逸子

もう卒業して早33年が経ちます。地元愛媛県の高校を卒業し、横浜看護学校へ入学し、寮生活を先輩と共に過ごし、その時はちょっと窮屈な思いはしましたが、今は、あまり優等生ではなく勉強も看護実習も苦手でしたが3年生の時に何と寮長になり後輩を指導する立場となり、寮生活の規則の改正に奮闘し少しでも寮生活を住みやすくしようと張り切っていた事を思い出します。学校生活ではもっと真面目に学んでおけば良かったとか実習にもっと前向きに取り組めば良かったとか卒業後は国立横浜病院に残ってスキルを磨いておけば良かったとか思う事は多々ありますが、寮と目の前にあった学校と敷地内にある病院を行き来した3年間は私にとって今となってはかけがえのない青春時代で広報誌楓葉を拝見しながら懐かしく思い出します。

そんな土台があり、現在は熊本県阿蘇郡南小国町に嫁ぎ31年になりますが縁があり、『特別養護老人ホーム悠清苑』の施設長となり11年目になります。施設は設立して26年目に入ります。当初は看護師として入職し、生活指導員や介護支援専門員となり現場を踏みながら現在に至っています。事業所は入居者が特別養護老人ホーム50名・地域密着型ホーム20名・グループホーム9名・短期入所定員10名。通院介護定員35名・居宅介護支援事業所利用者70名と職員数80名です。地域の為に社会福祉法人としての役割と存在意義を果たし、ご利用者の為に全力でサポートする事を使命として職員共々奮闘している所です。

毎日が忙しく過ぎていきますが、いつか機会があれば横浜には行きたいと思っています。私の青春時代だった時を回想しながら……。



21回生 加藤 佳代子 (写真中央)

同窓会の皆様、お元気でしょうか。

私は、旧国立横浜病院付看護学校を卒業して、国立横浜病院に入職しました。

結婚を機に退職し、子育てが一段落した平成15年から現在の職場である介護老人保険施設に勤務しております。

就職のきっかけは、家の近くに今の施設が開設され、病院とは違う看護の道でまた仕事したいと思ったからです。ブランクが10年近くあり、そんな自分が、看護師として仕事できるか大変、不安でしたが、気付いたら15年が経ち、管理職という立場になりました。

昨年より同窓会の幹事を引き受け看護学校に足を運ぶ機会を得ました。学校も病院も新設され昔の面影はありませんが、懐かしいこの場所に来ると20歳前後の多感な乙女に戻り、沢山の楽しい思い出に包まれます。

看護の原点はいつもここにあると思っています。

現実には、超高齢化した今の医療の在り方と利用者の尊厳をどうすべきなのかを考え答えが見つからず、悩む毎日です。

日々の生活の中で困難や疑問に直面した時、帰れる場所、同じ精神を持つ仲間がいることが、今の自分を支えてくれていると思い感謝しています。

これからも仲間が増えていくことを楽しみに、頑張って看護の道を歩み続けて行きたいと思っています。



楓葉祭参加 (H28.10.29)

2回生の先輩から看護スキルの伝授？

会を重ね、同窓会ブース“茶呑み処”が居心地良く感じられます。

全国で活躍する同窓生

22回生 亘 智絵



私は現在、小規模多機能型居宅サービスの施設の管理者兼看護師として働いています。「ショウキボタキノ？小規模多機能って何？」という方もいらっしゃると思うので紹介します。2006年に開始された介護保険サービスで、利用者は在宅で暮らすことを基本として、通い、泊まり、訪問を組み合わせ提供するサービスです。泊まりや訪問の時も同じ職員の顔ぶれなので、利用者もスムーズになじんで下さり、急な泊まりや変則的な通いの時間にも柔軟に対応することにより、在宅での暮らしを家族や地域の人に支えられながら続けることができます。在宅看取りも可能です。

私は、看護学校卒業後は地元の総合病院に就職し、2006年に緩和ケア認定看護師の資格を取り、訪問看護ステーションに転職しました。在宅看護を通して、家で暮らす人たちの生き生きした表情に魅せられた私は、有料老人ホームにも勤めましたが、やはり在宅の現場に戻りたいと考えていました。そんな時当施設が開設することを聞き、オープニングから関わって、3年目を迎えました。

今の職場の同僚の多くは介護職です。介護の専門職としてプロ意識が高く、勉強熱心です。看護職、介護職が一緒になって利用者の「生活」を支えていく仕事は、とてもやりがいがあります。利用者との何気ない日常やイベントなどを楽しみながら働いています。

25回生 富樫 久美
山形県鶴岡市立朝陽第一小学校養護教諭



「健康に生活するためには、健康教育が大事」との思いから、3年の臨床経験を経て養護教諭の道に進みました。

現在は児童数560名の小学校に勤務しています。新学期がスタートして間もない4月の保健室は、日々の来室児童の対応に加え健康診断、修学旅行や自然教室の引率等、目の回るような忙しさですが、かわいい子ども達から元気ももらい、毎日楽しく充実した日々を過ごしています。

養護教諭に求められるニーズは多岐にわたり、近年ではケガや体調不良児童への対応はもとより、精神面でのフォローや発達障害を抱えた児童への対応が大きくなっています。保健室での子どもへの対応では、「手をかざして看る」という看護の基本を大切にしています。そして、看護学校時代の教え「看護は観察に始まり、観察に終わる」を児童理解の礎にしています。そうすることで、目の前の子どもの課題が見えてくるからです。気づきという点の連続を線から面につなげることを意識し対応しています。同時に組織で動くことが必要になりますが、この場合も、病棟実習で学んだ「患者さんの為のチーム医療」と基本は同じと考えます。

病院と学校（保健室）という違いはありますが、私の養護教諭としての原点は横浜看護学校での学びです。小学校の子ども達が、中学校に行っても、少々のことではへこたれないような、健康な心と体の基礎づくりができるよう、今後も看護の目と心で保健室から支援していきたいと思いをします。



植樹式参加 (H29.2.23)

オリーブ
花言葉：平和・智恵
乾燥に強く、成長のスピードも速いシンボルツリーとしても人気の樹木。
52回生と共に強く大きく伸びて行ってくださることを思います。

平成29年度 役員

会長	佐竹 一枝 (20回生)	書記	米澤 繁子 (10回生)	会計監査	濱 法子 (14回生)
副会長	鈴木 雪子 (19回生)		甲田 まゆみ (25回生)		川口 妙子 (16回生)
	日野 恵子 (28回生)	会計	関口 静江 (21回生)		
			石川 励 (50回生)		

平成29年度 幹事

1 回生	井坂 洋子	26 回生	長尾 久 栄	45 回生	勝間田 昌 寛
2 回生	丸貴 ミサ	27 回生	富浦 裕	45 回生	樋渡 彩子
3 回生	地蔵 テイ子	28 回生	木内 由起子	45 回生	寺内 舞
4 回生	神代 アキエ	29 回生	清水 敦子	46 回生	伊藤 紗緒里
5 回生	深石 みつ子	30 回生	小堺 史恵	46 回生	小山田 真美
6 回生	井上 ふさ子	30 回生	中野 理恵	46 回生	田尻 高基
7 回生	稲垣 文子	31 回生	松岡 泰子	46 回生	中曽根 未央
8 回生	曾我 ふじ恵	32 回生	小林 里美	46 回生	荒木 大地
9 回生	寺沢 秀代	33 回生	小林 美樹	46 回生	坂本 健太郎
10 回生	米澤 繁子	33 回生	川辺 美里	46 回生	藤川 仁子
11 回生	小泉 由美子	34 回生	巨瀬 里美	46 回生	森 麻美子
12 回生	大幡 洋子	35 回生	伊藤 直子	47 回生	早川 敦子
13 回生	市川 美紀子	36 回生	坂口 佳織	47 回生	村上 佑子
14 回生	濱 法子	37 回生	池江 真彦	48 回生	新沼 美穂
15 回生	関戸 富子	38 回生	成田 真代	48 回生	平田 彩佳
16 回生	川口 妙子	39 回生	佐々木 博之	49 回生	角 俊一郎
17 回生	杉山 トミ子	40 回生	斉藤 彩	49 回生	佐藤 太一
18 回生	村松 真佐子	41 回生	霜鳥 耕輔	49 回生	久永 菜子
19 回生	鈴木 雪子	41 回生	川上 泰史	49 回生	平山 光子
20 回生	佐竹 一枝	42 回生	岩竹 絵美	50 回生	中村 智
21 回生	加藤 佳代子	42 回生	佐藤 広太	51 回生	三宅 徹
22 回生	江口 裕子	43 回生	平沙 敬悟	52 回生	出野 光
23 回生	小谷 知美	43 回生	三澤 宏美	52 回生	玉井 沙
24 回生	崎山 和美	44 回生	田村 佳世子		
25 回生	甲田 まゆみ	44 回生	佐藤 春加		

《 幹事の役割 》

- 1.自分のクラスメートの住所把握：
変更時や不明者の住所判明時は、役員に連絡。
- 2.幹事会への出席：年1回（6月第1土曜日）。
やむを得ず欠席の場合は、責任を持って代理出席者を立てる。
- 3.同窓会事業への参加：
幹事交代時は、次期幹事を責任を持ち決定し、役員に知らせる。

同窓会の主な活動

- ＊毎月役員会（第1土曜日）
- ＊植樹式へ参加
- ＊3年生への同窓会説明会
- ＊同窓会誌「楓葉」準備・発行
- ＊学校の各行事へ出席
- ＊楓葉祭へ参加…今年は10月28日（土）

住所変更届けのお願い

改姓・住所変更等ありましたら同窓会本部まで、メールまたはFAX、郵送にてお知らせ下さい。

<記載内容>

回生、氏名、変更内容（旧〇〇、新〇〇）、連絡先
よろしくお願ひ致します。

同窓会本部

〒245-0063横浜市戸塚区原宿3丁目60番2号
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校内
TEL. 045-853-8322（学校直通）FAX. 045-853-8348
E-mail. setumeikai@yokohama-ns.ecweb.jp
（※件名に「同窓会へ」と入力して下さい）

編集後記

今年も暑い夏がやって来ました。皆様、体調にはお変わりございませんでしょうか。今回の楓葉誌は、全国で活躍する同窓生特集でした。病院だけでなく、看護師の職場は幅広く色々な職場でご活躍されている同窓生の皆様に励みを頂きました。全国各地、はたまた海外でも…？輝いている同窓生の皆様に向けて、学生時代を懐かしみ励みにして頂けると幸いです。

42回生 岩竹 絵美